

佐渡國小木民俗博物館及び宿根木地域の活性化

國學院大學博物館学研究室
内川隆志（代表）、二葉俊弥、真島啓輔
張蓉、佐川果蓮、片野来実、時吉咲子

・活動概要

本活動は、令和2（2020）年11月、國學院大學大学院博物館学コース代表の内川隆志が国指定史跡長者ヶ平遺跡の発掘調査以来親交のあった新潟県佐渡市小木地区において地域と協働した研究活動の実践を計画し、地元の元佐渡博物館館長の高藤一郎平氏に相談させていただいたことが端緒である。

佐渡國小木民俗博物館は、大正10（1921）年に設立した旧宿根木小学校を利用し、昭和47（1972）年に民俗学者の宮本常一氏の提案・指導によって設立された登録博物館である。館蔵資料として南佐渡の漁具や民具など国指定有形民俗文化財を含む約30,000点余りが保存・公開されているが、収蔵資料の目録化等の基礎作業が遅れている状況にある。そこで大学院博物館学コースをあげて取組む協働研究としてこれらの事業推進を進め、地域博物館としての活性化を目指すプロジェクトを策定させていただいた次第である。

具体的には、佐渡國小木民俗博物館における館蔵資料のクリーニングを含めた再整理を実施し、資料の現状把握と目録の制作を目標として重要伝統的建造物群保存地区宿根木を要する同地域との協働による博物館活動の活性化などを目論む内容である。

令和3（2021）年6月、地元佐渡市の中核施設である佐渡博物館の池田哲夫館長ならびに佐渡学センター濱崎賢一センター長をはじめとした佐渡市文化行政関係各位にご挨拶を行い、事業の概要説明を実施し了解を得ることが出来た。しかしながら令和3年度の事業は、COVID 19の蔓延によって全国的に警戒を強めた事によって見送らざるを得ない状況が発生したため次年度に持ち越しを決定した。翌令和4（2022）年6月に至って再度現地を訪問し、打ち合わせをおこない、令和4（2022）年9月16日から20日の日程でようやく現地において事業を実施することが出来たのである。



宿根木集落の様子



佐渡國小木民俗博物館

・具体的な活動内容

当初、元佐渡博物館館長で現在は佐渡國小木民俗博物館で学芸員として活動されている高藤氏より現状や課題についてご説明頂いた。

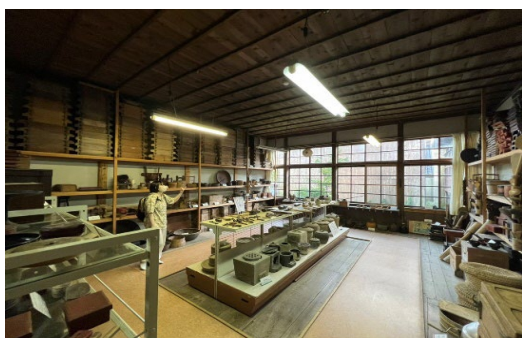
その後、佐渡國小木民俗博物館の展示と収蔵資料の整理活動に取り掛かった。同館には大小様々な種類の収蔵資料があるが、本年度は比較的整理や分類が容易であると考えられた陶磁器類について整理、写真撮影などを実施し、データベース化を進めた。

同館に収蔵されている陶磁器は、主に小木、宿根木地域における往時の賑わいを今日に伝えるには十分な量が収蔵されている。特に注目すべきはその多様な産地である。調査の結果、日本各地の陶磁器が収蔵されていることが確認され、北前船の交易が如何に佐渡にとって富や文化をもたらしたかが理解することができる。

・今後の活動について

本年度は、主に陶磁器について調査・整理を実施した。陶磁器類に関しては 523 点の写真撮影、寸法等の記録が完了し、デジタルデータ化したことでより有機的な資料の活用が可能となった。一方で、新館においては同時に古文書の整理も実施したが、来年度も同様に実施する予定である。

今後、全収蔵資料のデータベース化を進めつつ、文書類の整理を同時に行うことで、両方を多角的に検討することを可能にする。また、同館収蔵資料の詳細が明らかになれば、その上で更なる研究活動を実施することができ、佐渡國小木民俗博物館と宿根木地域の活性化に資する努力を続けていく予定である。



佐渡國小木民俗博物館 展示室の1室



陶磁器類 展示室



収蔵されている陶磁器類



資料撮影の様子